



特集

瑩山禅師ものがたり ②



瑩山さまが出家される道筋には やっぱり観音さまの存在がありました

ご存知のように、曹洞宗には大本山が二つあります。ひとつは福井県にある大本山永平寺、もうひとつは横浜市にある大本山總持寺です。この二つの寺を両大本山といいます。

永平寺は道元禅師が開かれました。總持寺は、この物語の主人公である瑩山禅師がお開きになりました。曹洞宗ではお二人を「両祖」として大切に敬っています。

観音さまの申し子

幼い頃の瑩山さまは、お母さまの懐観さまの観音信仰に感化されて、非常に信心深い子供として育ちました。

瑩山さまが三歳の頃のことです。その頃、

瑩山さまは「行生」と呼ばれていました。遊びに出たまま夕ごはんになつても戻らない禅師を探しに出かけたお母さま。一緒に遊んでいた子供たちと出会いました。

「みなさん、行生を知りませんか？」

「向こうで土遊びしているよ」
指差された方へ歩いていくと、土をこねて作った仏像を拝んでいる禅師の姿が目に見え、

飛び込んできました。
「まあ、なんて立派な観音さま！ 行生が作ったのですか？」

「そうだよ。いつも母上が拝んでいるからね」
「やっぱりあなたは観音さまの申し子ですね」

No. 57
2019 Summer

山松舎
寺南臨

観音堂で不思議な体験

五歳になると、お母さまが朝な夕な唱える観音経を耳からすべて覚えてしまいました。そして、お母さまと一緒に観音さまを礼拝し、読経するようにまでなりました。その頃から瑩山さまは「神童」と呼ばれるようになりました。

六歳の頃、瑩山さまは不思議な体験をしました。当時住んでいた越前の多椋村(現在の福井県越前市)には観音堂がありました。お母さまと観音堂にお参りしていた時のことでした。

何を思うことなく無心に観音経を唱えていると、瑩山さまの目の前に観世音菩薩さまが現れ出たのです。

「行生よ、世のため人のため、仏の道に進みなさい。お坊さまにならなさい。そなたをいつも見守っていますよ」

左手に持った蓮の花から花びらを一枚瑩山さまに手渡しながら、厳かに告げられたのです。その声の響きに瑩山さまは思わ

ず小さく、しかしはっきりとつぶやいていました。
「わかりました。観音さまのお言葉通り、お坊さまになることをお誓い申し上げます」

瑩山さまの手には、蓮の花びらが一枚残されていました。

それから二年が過ぎて

八歳になった瑩山さまは、お母さまに打ち明けます。

「母上、私はお坊さまになりたいのです。観音さまにお誓い申し上げたのです」

「行生や、お坊さまになるのは大変ですよ」

「はい、厳しい修行をしなければならぬことは聞いています。私はどんなつらい修行にも耐えてみせます。母上、お願いします」

「そこまで言うのなら、父上に相談してみよう」

瑩山さまの願いを聞いた、お父さまの瓜生長之進さまは烈火のごとく怒ります。

「ならぬ、ならぬ。お前は我が家の一粒種ぞ。瓜生家を継ぐのが、お前の持つて生まれた定めじゃ。出家などもつてのほかじゃ」

怒りの声は収まらず、お母さまのとりなす声もかき消されるほどでした。

そこで瑩山さまがとられた、とつておき作戦とはどんなことだったのでしょうか？

そのお話は次回といたしましょう。

迎へ火に あの時この世の 人つどふ 三浦如水

八月はお盆、 九月はお彼岸です



臨南寺のお盆行持は、八月十日、十二日のお墓経から始まります。十二日には、「弁財天万灯会」も催します。ご先祖様や亡き人のご供養とともに、皆様の願い事を書き入れて、弁天様に献灯いたしましたよう。

に感謝し、自らを振り返る大切な期間です。ご先祖様をしのび、ご家族の今に感謝いたしましたよう。ご家族そろってお参りください。ご都合が悪い方は、いずれの行持も不参にてお受けしますので、お問い合わせください。

十六日には、孟蘭盆会施食会を修行いたします。亡き人やご先祖様など各家にゆかりの精霊をご回向させていただきますので、ご家族そろってお参りください。

九月はお彼岸です。

九月二十三日、二十四日にお彼岸のお墓経を行います。

二十六日は、彼岸会施食会の法要を行います。お彼岸はご先祖様



8月12日本堂前は、弁天様への献灯が揺れて幻想的

寺景 百景



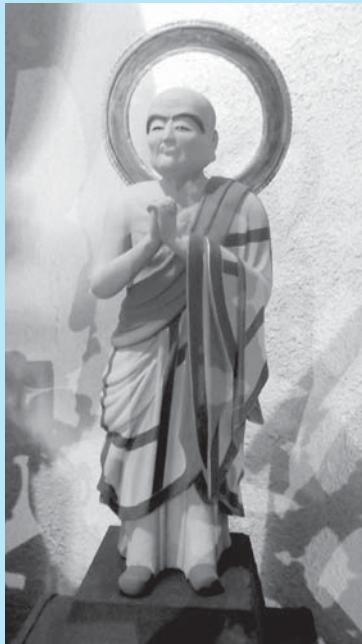
修復なった

摩訶迦葉様

臨南寺の本堂にそびえる須弥壇の上から静かに見下ろされているお釈迦様。その両脇に控えられているのが、お釈迦様の弟子のお二人、摩訶迦葉様(右)と阿難陀様。今回は摩訶迦葉様をご紹介します。

摩訶迦葉様は、お釈迦様の弟子となつて一週間後には悟りを開いたといひます。そのとき自分が着ていた新しい袈裟をお釈迦様にさしあげ、お釈迦様が着ていた古い袈裟をもらい受けて、いつもそれを身にまとっていました。そのうえ、つねに托鉢をして歩き、施

されたものを一日一食だけ摂って生活しました。こうした衣食住に対する執着のまったくない姿から、摩訶迦葉様は「頭陀第二」とたたえられました。お釈迦様の代理を務めることも多く、入滅後は後継者として活躍しました。お釈迦様の教えが勝手に解釈されることを恐れた摩訶迦葉様は、經典にまとめる会議の開催を呼びかけ、議長役を務めたのもその一つです。



須弥壇のお釈迦様と脇侍の摩訶迦葉様(右)と阿難陀様

黒ずんでいた表情や袈裟が美しくよみがえりました

大迫力！和太鼓の響きに酔う

平成から令和へ、改元されて十日余りの五月十二日(日)、午後二時半からがつしょう園マトリの合同法要が営まれました。

会場の紫雲殿には一台の大太鼓を囲むように四台の太鼓が据えられ、僧衣にたすき掛けのお坊さんたちが、一糸乱れず体全体を使って、バチをふるいます。腹に響く音が紫雲殿にあふれ、屋根を突き破らんばかり。お坊さんたちの顔もみるみる紅く染まり、汗が滴ります。

実は、お坊さんたちは三重県曹洞宗青年会の和太鼓集団「鼓司くす」の方々。全員が住職や副住職。日頃はお参りや坐禅に取り組み、そのかたわら和太鼓の練習に打ち込んで地域交流の輪を広げています。

この日は快晴で気温も三〇度を超える勢い。最初は本堂の前での演奏を予定されていましたが、暑さのため断念。紫雲殿での演奏となりました。



お坊さんたちの大迫力の演奏に感動しました

お一人お二人のひた向きさ、二打二打に込められた想いが、二つの曲となって魂を宿し私たちの心を揺さぶるのでしようか。CDやDVDも発売されています。ご興味のある方は寺務所までお問い合わせください。

臨南寺行持予定 (八〜九月)

○ **お墓経** はかせぎ
*八月十日 午前十時〜正午

*八月十二日 午後五時〜八時

お盆のお墓経を行います。どちらかご都合のよい日にお越しください。塔婆の準備がご用意ですので、必ず事前にご連絡ください。回向料二万円

○ **弁財天万灯会 (本堂)**

*八月十二日 午後六時〜八時

ご祈禱は、一回目 午後六時半〜 二回目 午後七時半〜

あらゆる願いを叶えてくださる弁財天様に、願いを託して献灯をし、福を授かりましょう。お盆の迎え火としても、ご献灯いただけます。

どなたでもご参加いただけます。祈禱料(献灯料)三千元

○ **孟蘭盆会施食会 (本堂)**

*八月十六日 午前九時〜十二時半

お盆供養の法要を行います。各家のご先祖様と、ご縁の深い精霊のご供養をいたしましょう。どなたでもご参加いただけます。回向料二万円

○ **お墓経** はかせぎ

*九月二十三日 午前十時〜午後三時

*九月二十四日 午前十時〜午後三時

どちらかご都合のよい日にお越しください。塔婆の準備がございますので、必ず事前にご連絡ください。回向料二万円

○ **彼岸会施食会 (本堂)**

*九月二十六日 午後一時〜二時半

お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝し、わが身を省みる大事な期間です。ご先祖様をしのび今あることに感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。回向料二万円

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日(二月、八月は無し) 午前六時半〜 本堂にて

写経会

毎月二十日(八月は無し) 午前十時〜午後三時 写経料・千円

*いずれも急ぎよ中止になる場合がありますので、前日に確認してください。

どうぞよろしくお願いいたします。

今年二月からお勤めさ

せていただいております植

木由美子と申します。

旅行が趣味で、全国各地

のお寺をお参りし、庭園を

観賞していると四季の移ろいを感じておりました。

この度ご縁があり、臨南寺でお仕事させていただきましたことになりました。梅や桜など自然が豊かで鳥のさえずりが聴こえる本堂で、毎朝手を合わせ読経しておりますと、多くの方に支えられ、またご先祖様に見守られながら、日々穏やかに過ごせることに感謝の気持ちでいっぱいになります。

お寺の仕事は初めてで戸惑うことも多くありますが、お寺様や寺務所の皆様にご指導いただきながら、多くの経験を積んでまいりたいと思います。法要や寺務所の仕事に携わらせていただくことで、ご来寺される皆様方との出会いの一つひとつに感謝し、このご縁を大切にしていきたいと思っております。

初心を忘れずに精一杯お努めさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。



植木由美子

墓苑を ご利用の 皆様へ



- 手桶を花立て代わりに使わないでください。
ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。

- トイレにはトイレットペーパー以外は流さないでください。ティッシュペーパーは水に溶けません。ウエットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。

お盆とお彼岸は、車が込み合います

特に八月十三日～十五日と九月二十日～二十三日は、車が込み合いますので、ご了承ください。境内の歩道は、徒歩の方や車椅子の方だけでなく、自転車の方もご利用いただけます。

数年前から、当寺院の境内地で人身事故が発生しています。境内での運転は最徐行をお願いします。

改善される様子が見られなければ、車両の乗り入れを禁止いたします。

なお、境内地内の事故等につきましては、当寺院では一切の責任を負いません。



この歩道は、自転車もご利用ください

編集後記

「迷う、ということは、一種の欲望からきているように思う。ああもなりたい、こうもなりたい、こういうふうに出世したい、という欲望から迷いがでてくる。それを捨て去れば問題はなくなる」パナソニックを創業した松下幸之助さんの言葉です。(M)

「ほ～っと」57号

令和元年7月

編集・発行： りょうがりん 椋伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com